

# せんだいのスポーツむかし話

仙台藩の武道とスポーツ③

## 仙台が誇る名力士・谷風とライバル・小野川

仙台市博物館 学芸普及室長 樋口 智之

第4回  
(最終回)

### 胸躍るライバル対決

相撲ファンにとって大きな楽しみの一つは、ライバル対決ではないでしょうか。昭和時代の相撲を知る方々にとっては、栃錦と若乃花、あるいは大鵬と柏戸でしょうし、私自身はといえば小学生的頃、輪島と北の湖の対戦に幾度となく胸を躍らせたものです。

江戸時代の人々も同様でした。今から遡ること二百年余り、天明から寛政にかけての頃(十八世紀末)に、江戸の庶民を夢中にさせたのが、仙台が誇る谷風(一七五〇〜九五)と、近江国(滋賀県)出身の小野川(一七五八〜一八〇六)のライバル対決でした。

### 郷土の名力士・谷風

谷風は宮城郡霞目村(若林区霞目)の出身で、明和六年(一七六九)に初土俵を踏み、天明元年(一七八二)には大関に昇進。天明二年二月場所六日目までに四年越しの六十三連勝を成し遂げるなど無双の強さを誇っていました。この連勝を止めたのが小野川で、以後、二人の対戦は人々の注目の的となりました。

寛政元年(一七八九)には二人揃って

横綱を免許されました。現在現役の大鵬は六十九代、鶴竜は七十一代の横綱ですが、谷風・小野川は四代・五代にあたります。一〜三代については不明な点も多く、実質的には二人が史上初の横綱と考えられています。

また、寛政三年(一七九二)には將軍徳川家斉による上覧相撲が催され、二人は結びの一番で対戦、この時は谷風に軍配が上がりました。

谷風の強さは確かに際立っていましたが、小野川というライバルを得て一層その輝きを増したといえます。二人の活躍によって、今日まで続く相撲人気礎が築かれたのです。

### 二人を描いた相撲絵の優品

相撲人気の盛り上がりとともに、相撲を題材とする浮世絵も盛んに制作されました。下の写真は「谷風・小野川立ち合いの図」。たくましい充実した体軀の二人が画面いっぱい描かれています。左が中腰に構える谷風。身長約一九〇センチ、体重約一六〇キロとも伝えられる巨体で、相手をしっかりと受け止める構えのようです。背中筋肉の盛り上がりや、土俵をしっかりとつかむ大きな足は、谷風の力強さを感じさせます。一方、右の小野川は腰を割り、右腕を抱え込むようにして小さく構えます。技巧派とされる小野川らしく、立ち合いから何か技を繰り出したような雰囲気を感じさせます。

描いたのは浮世絵師・勝川春章(一七二六?〜九三三)。役者絵や美人画に優れた作品を残し、かつ相撲絵でも第一人者として活躍しました。本図における二人の力士の個性の描き分けは見事であり、また行司・木村庄之助を加えた三者の視線を一点に結んだ求心的な構図も、立ち合いという緊張の瞬間を演出しています。人々を熱狂させた相撲史上屈指のライバル対決は、當時を代表する浮世絵師をして、このような優品を生み出させたのです。

次号からは新コーナー「資料で旅する仙台藩の『道』」がスタートします。



谷風・小野川立ち合いの図 勝川春章画 仙台市博物館蔵

旬の常設展2020夏 6/23(火) ▶ 9/22(火・祝)

## 「支倉常長帰国400年」ほか

7月21日(火)から9月13日(日)までは、ユネスコ記憶遺産3点を含む  
国宝「慶長遣欧使節関係資料」全47点を6年半ぶりに一挙公開!

今年は、伊達政宗の命により海外を旅した慶長遣欧使節の一人・支倉常長の帰国から400年の節目の年です。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、この節目を記念する企画展に代わり、夏の常設展で企画展の内容をギュッと詰め込んだ特集展示を行います。

【観覧料】一般・大学生 460円、高校生 230円、小・中学生 110円

※新型コロナウイルス感染予防のため、ご来館の際はマスクの着用にご協力をお願いいたします。



ユネスコ記憶遺産・国宝 ローマ市民権証書  
仙台市博物館蔵 (展示期間:7/21〜9/13)



ユネスコ記憶遺産・国宝  
支倉常長像 仙台市博物館蔵

仙台市博物館  
SENDAI CITY MUSEUM

▶7月の休館日 毎週月曜日 ▶開館時間 9:00~16:45(入館は16:15まで)

▶博物館ホームページ 仙台市博物館 検索 ※開館状況など最新の情報は、博物館ホームページをご覧ください。

▶博物館ツイッター @sendai\_shihaku 〒980-0862 仙台市青葉区川内26番地(仙台城三の丸跡) TEL:022-225-3074